

熊本高等専門学校

ICT

平成24年度
ICT活用学習
支援センター報

第 2 号





	巻頭言
2	はじめに
	ごあいさつ
3	熊本高等専門学校ICT活用学習支援センター報第2号発行
	寄稿
4	メディア制作スタジオを使った放送部の活動紹介
5	複合現実感技術を用いた新しい図書館サービスの開発
	報告
	プロジェクト報告
7	ICT活用学習支援センター研究・教育プロジェクトの成果
	セミナー・講習会報告
8	新図書データベース等利用講習会 平成24年度中学校サマーセミナー報告
9	熊本シニアネット八代支部会員への「EXCEL関数入門」セミナーの開催
10	小学校5・6年生を対象としたコンピュータプログラム体験講座報告
11	講義映像自動作成システムとストリーミング配信管理システム講習会
13	電子デバイス制御用ソフトウェア開発講座
14	平成24年度熊本県中学校プログラミングコンテスト報告
15	平成24年度高専学生によるIT講習会報告
	ICT活用学習支援センターからの報告
16	新ネットワークについて
17	八代キャンパス新教育用電子計算機システムについて
	会議・研修等参加報告
18	平成24年度eラーニング高等教育連携(eHELP)全体会議報告
	障害・メンテナンス状況
	サーバ・ネットワーク関係
19	障害・メンテナンス記録(熊本キャンパス)
20	障害対応・メンテナンス状況の作業報告—サーバ関係—(八代キャンパス)
	教育用システム関係
21	教育用システム障害・メンテナンス記録(八代キャンパス)
	資料
22	新ネットワークシステム概略図 新教育用システム概略図(八代キャンパス)
23	英語教育用DVDプレーヤーと3D-TVの導入(八代キャンパス) 電子掲示板設置(八代キャンパス) 図書館2階廊下のバリアフリー化(八代キャンパス) 講義収録・動画コンテンツ作成システム「Cbox P2」導入(八代キャンパス)
24	平成24年度演習室インストールソフトウェア一覧(八代キャンパス)
25	平成24年度ICT活用学習支援センター演習室時間割(八代キャンパス)
26	WebClass(eラーニング)の利用状況(熊本キャンパス)
31	WebClass平成24年度コースごとのコンテンツ利用状況(八代キャンパス)
32	平成24年度八代キャンパスICT活用学習支援センター演習室の利用状況
35	図書館統計(入館者数、蔵書数、分野別貸出冊数、月別貸出冊数) 施設見学者一覧
36	平成24年度活動一覧
37	ICT活用学習支援センタースタッフ ICT活用学習支援センター運営委員会委員 ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会委員 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会委員
38	編集後記

はじめに

熊本高等専門学校 校長 宮川 英明



実践的な技術者を育成し日本産業界発展の一翼を支えてきた高専は、平成24年度に制度創設50周年を迎えました。高専制度の発足は日本の高度経済成長のスタートと重なりますが、高度経済成長は昭和の終わりとともに終焉しました。その後日本経済は低迷期に入り未だにその域を脱せないでいる状況にあり、高専への期待や役割も大きく変化しています。日本は世界に先駆けて厳しい人口オーナス期にはいり、イノベーションを創出する人材、グローバル社会を担う人材の育成が喫緊の課題としてクローズアップされ、そのような変化に対応した教育改革が高専にも求められるようになりました。このような背景の中で、平成21年10月に熊本キャンパスと八代キャンパスからなる熊本高等専門学校が設置され、22年4月新学科並びに新専攻科に学生が一期生として入学して丸3年が経過しました。新高専の発足時に、他の2つのセンターとともにICT活用学習支援センターが、教育や学習の支援、ネット環境の拡充や業務の効率化支援、地域社会への支援を主な目的として設置され、その後も施設や設備の整備を進めてまいりました。

昨年の暮れには政権が交代し、様々な新しい政策が打ち出されています。その一つとして、グローバル展開を視野に入れつつ、ICTを日本経済の成長と国際社会への貢献の切り札として活用する方策等を検討するための「ICT成長戦略会議」が設置されました。その下には、イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方について審議する「イノベーション創出委員会」や、ICTを活用した新たなビジネス戦略の確立と国際競争力の強化を図ることを可能とするため、「コトづくり」力の強化に向けたICTの利活用方策等について議論する「ICTコトづくり検討会議」等が設置されるなど、ICTを活用した日本経済の再生が期待されるところです。

ICT活用学習支援センターにはこのような社会状況を考慮しつつ、これからの高度情報化社会を支える人材育成への支援が求められています。施設・設備の充実を図りながら、これらの目的を達成する為に様々な活動をしてまいりましたが、多様な興味関心を持ち、理解のレベルも異なる学生たちに対応するためには、個々の学生の理解度に応じた学習を可能にするような、ICTを活用した主体的な学びへの支援が最も重要であると思われます。学生は放課後を活用し、自分の理解度に応じて自主的に学ぶことで真の学力・活用力を養うと同時に、各界のリーダーとして活躍するために必要となる幅広い教養を培うため、生涯にわたって学び続ける力を身に付けなければなりません。そのためには個々の学生の興味とレベルに合った教材をいつでもどこでも学べる環境の提供が必要です。まだまだ不十分ではありますが、そのことも視野に入れ、センターでは様々な取組を実施してまいりました。この報告書はセミナーや講習会等を中心に平成24年度に実施した事業をまとめたものです。

皆様には、本センターに対して今後も変わらぬご理解とご支援を賜りますとともに、忌憚のないご意見を頂ければ有難いと存じます。



熊本高等専門学校 ICT 活用学習 支援センター報第2号発行

ICT 活用学習支援副センター長 小松 一男

平成21年10月の高度化再編により、ここ熊本高専に3つのセンターの一つであるICT活用学習支援センターが設置されてから3年半余りが経過いたしました。本センターは、地域における科学技術教育や研究の拠点にふさわしいICT基盤を整備し、図書や教育研究に関わる学術情報および本校で開発したマルチメディア教材やeラーニングコンテンツ等を、効率的に提供・利用してもらうための施設としての役割があります。これらを実現するために平成24年度の主な取り組みとして、教育用パソコンや学内LANシステムの更新を行い、無線LANのアクセスポイントを大幅に増設しました。そのため先生方は、iPadなどの携帯端末を教室内に持ち込んで、その場で無線LANにより出席簿システムに出欠状況を入力できるようになりました。会議にも出席者は自分の携帯端末から会議資料を参照できるようになりつつあり、ペーパーレス化のメリットである検索性、保存性、伝達性等の向上が見込まれております。

マルチメディア教材やeラーニングコンテンツ等の作成・利用に関しましては、講義映像自動作成システム(i-Collabo)とストリーミング配信管理システム(Content Cube)を導入しております。講義動画コンテンツと各種ドキュメントをWeb上で組み合わせて作成・編集・管理でき、PCの他iPad、iPhone、Androidタブレットなど各種端末にストリーミング配信可能なシステムとなっており、テキストベースの教材だけでなく、講義映像もインターネットから配信しやすくなり、学生にとって魅力的な予習・復習教材となることが期待されております。

ICTを活用した人材育成事業や地域連携事業への支援も本センターの大切な役割の一つです。平成24年度は、一般社会人を対象とした高専生によるIT講習会、小学生を対象としたプログラム体験講座、中学生向けプログラム作成講座やプログラミングコンテスト、社会人向け電子デバイス制御用ソフトウェア開発講座やEXCEL関数入門講座などを行いました。また、合志市や民間企業、NOP法人、熊本高専の産学官連携によるアニメ・マンガのクリエイター育成塾「響創塾」が本センターを利用して開催されることになり、地域活性化事業の支援にも取り組んでおります。

本センターは従来の情報処理センターと図書館を統合して、学術情報や教育・研究資源を集積・管理するとともに、これらを学生・教職員や地域の方々にも公開して、ICTを活用した協調学習や自学自習センターとしての役割を担えるよう、これからも取り組んでまいりたいと思っております。今後とも関係各位のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



メディア制作スタジオを使った 放送部の活動紹介

熊本キャンパス放送部 TE3年 藤林 祐貴

平成24年度に先端の高精細映像収録、配信技術や高水準の遮音遮光性を備え完成したICT活用学習支援センターメディア制作スタジオ。完成して1年を迎え、今回初めてNHK杯全国高校放送コンテスト出品用ドラマ制作で利用させていただきました。

活動開始時まだ部員全体の技術習得が間に合わずスタジオ内の機材は使いこなせていないという事で今回は実際の撮影収録に使う機材の大半はこれまで利用していたものを持ち込んで行いました。ですがここメディア制作スタジオを利用することでいくつもの大きな変化がありました。まずラジオドラマの収録効率が今までと比べ物にならないほど上がりました。これまでラジオ収録は遮音効果がない部室で行っていたため、周囲を走る車はもちろん鳥やひどいときには風の音に邪魔をされることがあり、なかなか収録が進まないということがありました。そのうえ狭い部室を長時間閉め切り収録を行うことで出演者への精神的な負担もかかりさらに収録が進まないなど負の連鎖が続いていました。しかし、ここメディア制作スタジオでは高い遮音効果が施されていることでヘリコプターなどごく一部を除きほとんどの音が遮断されることになり、外部の雑音を気にすることなく収録が行えるようになりました。これにより雑音による撮り直しがなくなったことだけでなく、周りを気にしながらの収録だったのが自分たちのタイミングで収録を進めることができるようになりました。さらにスタジオ内は広々として空調設備も充実し常時換気がされることで長時間室内を閉め切っても気持ち良く収録ができその結果収録をスムーズに進められました。また、今年度は台本や製作に関わる資料などは全てクラウド上で管理、共有を行い常に最新のものを全員が確認できるようにしていたので、収録時はクラウド上に保存されている台本をモニタに表示させて収録を行うということもしました。テレビドラマでは特

にスタジオの設備や備品を使うことはありませんでしたが、企画の際いくつか出された案の中から制作するドラマを選択する際「せっかくだからここ(メディア制作スタジオ)を使ったドラマを制作しよう。」ということで最終決定がされました。ドラマ内ではメディア制作スタジオを校内放送が行われている放送室という設定にし、ここを舞台に話が展開していくドラマを制作しました。

ここメディア制作スタジオにはプロが使用するような素晴らしい機材が揃えられています。まだまだ知らない事ばかりで全然使いこなすことができていませんが、これからもドラマ制作などを通じ部員全体でより高い技術を駆使した高いレベルの番組制作ができるよう技術を身に付けていきたいと思います。



写真1. テレビドラマ撮影の様子1



写真2. テレビドラマ撮影の様子2

複合現実感技術を用いた新しい図書館サービスの開発

建築社会デザイン工学科 岩崎 洋平

はじめに

近年、コンピュータの進歩・発展に伴い、私たちが生活している現実空間とCG（コンピュータグラフィックス）に代表されるコンピュータ内に構築された仮想空間をリンク（融合）して情報を提示するMR（Mixed Reality: 複合現実感）技術の研究が進められている。

筆者らは、「現実空間における情報と仮想空間における情報をリンクし、より多くの情報を分かりやすくユーザに提示する技術」である「MR技術」を用いて「図書館利用者のための総合的なMRサービスシステム:MR Librarian System (以下、MRLS)」の開発を目指している。

図1に示す通り、MRLSでは、MR Librarian (MR司書) と名付けたアバターを介して、2つの図書館サービス(蔵書検索および入館・貸出履歴管理) をユーザに提供する。

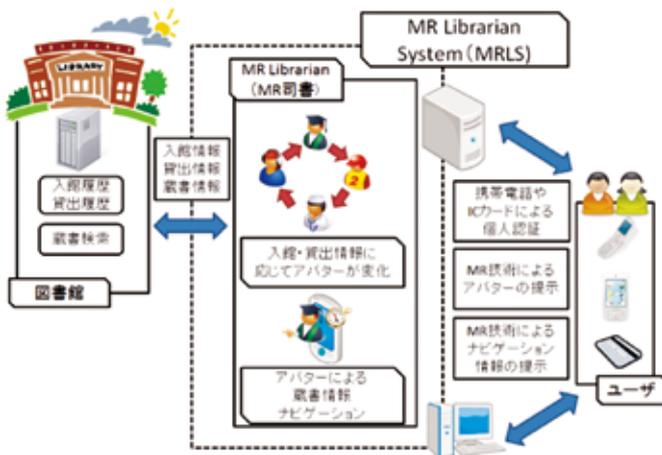


図1: MRLS概要

蔵書検索サービスでは、「ユーザの探している図書が置かれている場所までの案内情報をMR技術によって提示し、ユーザを案内すること」、入館・貸出履歴管理サービスでは、

「ユーザの入館履歴や貸出履歴のデータを分析して、貸出図書の嗜好や入館の傾向などをアバターの变化として分かりやすく提示すること」を目指している(図2)。

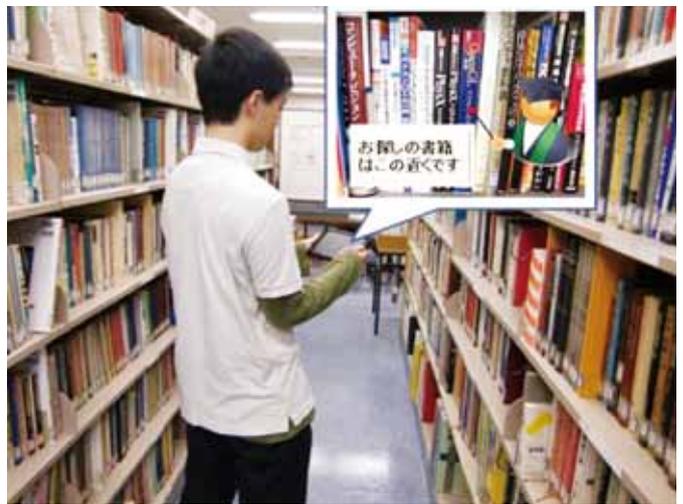


図2: システムの稼働例(イメージ)

蔵書検索サービス

現在、図書館で行われている蔵書検索サービスでは、探している図書がどの書棚に収められているかという情報しか得ることができない。そのため、書棚の位置については、各自で探すことが必要となる。そこで、MRLSでは、検索している図書が収められている書棚までの案内情報CGをMR技術を用いてユーザに提示するサービスを提供する。

図3に、開発中の案内情報表示の例を示す。本棚に貼付されたマーカを撮影することによって、図書館内でのユーザの位置を特定し、案内情報CGを生成する。生成された案内情報CGはAndroid端末のカメラで撮影された現実空間の映像上に重畳表示される。



図3 案内情報の表示

貸出履歴管理サービス

図書館において、そのユーザに付随する情報として、ユーザの入館履歴やどのような種類の本を何冊借りてきたかというものがある。MRLSでは、これらの履歴情報を分析して、ユーザの貸出図書の嗜好や貸出の頻度、入館状況の傾向などをアバターの変化（例えば医学系の図書を多く借りているユーザのアバターの衣装は、白衣に変化する）として分かりやすく提示する。



図4 アバター変化の例

また、MRLSでは、ユーザにインセンティブを提供することにより、図書館利用意欲および図書館利用率の向上を図ることも目的の一つとしている。

インセンティブとは、人々の意欲を引き出すために外部から与える刺激のことであり、これを利用した意欲向上のための手法をインセンティブプログラムという。インセンティブとしては、金銭や物品の提供が効果的であるが、これらは図書館のような教育機関には適していない。

そこで、MRLSでは、金銭や物品以外のインセンティブとして、蔵書検索サービスおよび貸出履歴管理サービスをユーザに提供することを考えている。このようなインセンティブが有用であるかを検討するために106名の本校学生および教職員に対してアンケート調査を行った。表1に5段階評価（5が高評価）のアンケート結果を示す。

質問	質問	平均
A	アバターへの興味は?	4.2
B	アバターの変化への興味は?	4.5
C	本サービスが導入されれば、図書館の利用意欲は増えるか?	3.9

表1 アンケート結果

質問Aと質問Bの結果から、アバターおよびアバターの変化がユーザの興味を強く惹いており、インセンティブとして有用であると評価できた。質問Cまた自由記述の結果より本サービスのインセンティブプログラムとしての有用性およびその可能性を確認することができた。

まとめ

本稿では、複合現実感技術を用いた新しい図書館サービスの開発について紹介した。今後は、これら2つのサービスシステムの精度・性能の向上を図るとともに、両システムを統合しMRLSの完成・より大きなインセンティブをユーザに与えることのできるサービスシステムの開発を続けていく。

※本研究は、科学研究補助金・若手研究(B)：23700291の支援を受け実施している。

ICT活用学習支援センター研究・教育プロジェクトの成果

情報通信エレクトロニクス工学科 石橋 孝昭

プロジェクト名

音響信号を用いた技術の可視化に関する学習支援プロジェクト

プロジェクトメンバー

代表者

情報通信エレクトロニクス工学科
准教授 石橋 孝昭

共同実施者

PBL・総合教育センター
教授 小田川裕之
制御情報システム工学科
准教授 中島 栄俊
人間情報システム工学科
准教授 藤井 慶

プロジェクトの目的

音響信号処理技術を中心に、教科書で読むだけでなく、技術を実際に見られて触れられる教材を開発することで、ものづくりを意識した高専教育の学習を支援することを目的とする。特に、本プロジェクトは、専攻科を含む全学科の若手教員を中心として立ち上げている点に特徴があり、技術に未習熟な学生の意見を取り入れ、学生の立場に立って学習支援することを目的としている。

プロジェクトの内容

既存の技術である各種フィルタ、ノイズキャンセラ、エコーキャンセラ、エフェクタなどは、身の回りのあらゆる機器に利用されている。これらの技術については、教科書で紹介されているが、実際

はブラックボックス化されていて身近に感じる事ができない。そのため、それらの技術の存在を明確にすると同時に、その技術の設計方法を身に付けるための支援を行う。本プロジェクトでは、身近に存在している馴染み深い音響信号を用いることで高い学習支援効果を目指す。

成果報告

音響信号処理の研究に関する取り組みとして、平成23年度は、以下の成果を上げた。

【特許】

●石橋孝昭, “信号処理方法、装置、プログラム、およびプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体,” 特願2012-225734, 2012.

その他に、論文:1件、国際会議:2件、口頭発表:12件の成果を発表した。

発展計画

学生実験や卒業研究などで、学生が自主的に設計や製作ができるように発展していきたいと考えている。音響信号処理の技術を見ることで、専攻科での研究活動に対しても大きな発展が見込まれる。今後ホームページなどを利用してプロジェクトの成果を公開する予定である。

新図書データベース等利用講習会

八代キャンパス共通教育科 米沢 徹也

前期中間試験の初日の平成24年6月8日（金）の15:30～16:30にICT活用学習支援センター第2演習室において、光永学術情報係長を講師とした新図書データベース等利用講習会を開催しました。参加者は14名で、「OPAC」、「JDreamⅡ」、「ScienceDirect」の3つのデータベースシステム

による文献検索についての説明を中心に進められました。実際にパソコンを操作しながらの講習でしたが時間の関係で基本操作のみの説明に留まり詳細な説明は省略されました。本校における過去の利用状況についてのデータも示され、もう少し活用が望まれると感じました。

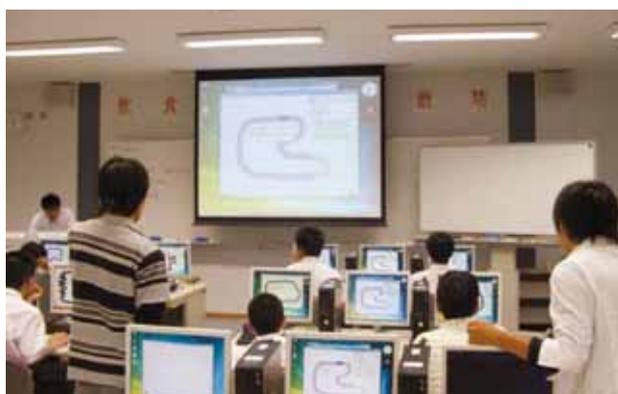


講習会の様子

平成24年度中学校サマーセミナー報告

平成24年8月25日（土）、26日（日）の2日間、午前中は10:10～12:00、午後は13:00～14:50まで、八代キャンパスのICT活用学習支援センター第1、第2演習室において、中学生対象のサマーセミナーを開催致しました。今年度は「プログラムを使ったゲームの作成」と「コンピュータグラフィックスの作成」の2つのテーマとし、同時に2会場で開催しました。「プログラムを使ったゲームの作

成」に25日が8名、26日が7名、「コンピュータグラフィックスの作成」に25日が5名、26日が5名の参加者がありました。2日間参加してくれた生徒は5名いました。やはり、ゲーム作成のほうが人気があるようです。講師やTAは本校の10名の学生が担当し、中学生の皆さんは楽しく勉強して作品を作り上げていました。



プログラムを使ったゲームの作成



コンピュータグラフィックスの作成

熊本シニアネット八代支部会員への 「EXCEL関数入門」セミナーの開催

八代キャンパス共通教育科 米沢 徹也

ICT活用学習支援センターが主催して8月27日（月）～29日（水）の3日間、18:00～21:00にICT活用学習支援センター八代キャンパスの第2演習室で「EXCEL関数入門」セミナーを開催しました。平成22年度の「WORD入門」、平成23年度の「EXCEL入門」に続く第3回目の開催でした。受講者は熊本シニアネット八代支部の40歳から75歳までの会員の皆様で20名の参加者でした。テキストは市販のテキストを受講者の皆様に各自購入して頂き、EXCEL2007の関数を勉強するセミナーと

しました。3日間で「数学/三角関数」、「統計関数・データベース関数」、「日付/時刻関数」について実習形式でセミナーを進めました。TAとして8名の学生がサポートしてくれましたが、毎回受講者から活発に質問され、その対応に追われていました。アンケートには79%の方が50～80%理解できたが、やや難しかったと回答されました。受講者の方全員が、非常に熱心に勉強に取り組み、充実したセミナーとすることができました。



セミナーの様子

小学校5、6年生を対象とした コンピュータプログラム体験講座報告

生物化学システム工学科

村田 美友紀

ICT活用支援学習センターが主催して、「小学校5、6年生を対象としたコンピュータプログラム体験講座」を9月2日(日)9:00~12:00に開催しました。八代キャンパスで開催された講座には、八代市内だけでなく熊本市や人吉市などから11人の小学生が参加しました。

講座では小中学生のプログラミング学習に世界中で利用されている「Squeak (スクイーク)」を使って、簡単なゲームを作成しました。参加者のほとんどはパソコンでゲームやインターネットをしたことはあるが、プログラミングの経験がないということでしたが、タイピングが少なく、マウスの操作で作成する「Squeak」プログラムは分かりやすく、操作にもすぐに慣れた様子でした。自分が描いた絵がプログラムで動作すると歓声が上が

り、TAの本校学生に分からないところを質問するなど積極的に取り組んでいました。また、「迷路にしたい」、「ワープさせたい」、「キーボードを使って移動させたい」などそれぞれが考えたアイデアをTAに教えてもらいながらプログラミングを楽しみました。

アンケートでは、全員の参加者が楽しかったと回答しており、講座の内容もほとんどの参加者がだいたいわかったと回答しています。さらに高度なプログラミングしたいとの声もありました。小学生を対象にしたプログラミング講座は初めてでしたが、コンピュータを操作したことがあれば「Squeak」でプログラミングすることは簡単であり、プログラミングに興味を持って楽しく参加してくれたことが分かりました。



講座の様子

講義映像自動作成システムと ストリーミング配信管理システム講習会

人間情報システム工学科 小松 一男

平成24年9月3日(月)八代キャンパス一階合同講義室において、平成24年度熊本高専教員研修会が行われ、研修会最初の10時から11時10分まで講義映像自動作成システム(以後i-Collabo)とストリーミング配信管理システム(以後Content Cube)の講習会が行われましたのでご報告いたします。この研修会は、「両キャンパスの教員と一緒に研修を受講することで、一つの高専としての意識を高めながら、教員としての教育研究の資質向上を目指すと共に、相互の理解や情報の共有をおこなうことで、互いの親睦を深める。」ことを目的として毎年行われております。

講習会の内容は、まず小松より講義録画配信システムの概要説明があり、パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)の松嶋修氏より、通常の授業内容を家庭用ビデオに収録し、編集された講義映像をどのようにしてContent Cubeにより

インターネットで配信するかの手順と操作方法の説明がありました。最後に、小松より本システムを利用して実際に授業を収録して配信している講義コンテンツの事例紹介がありました。

このシステムは、授業の様子を黒板全体が入るように家庭用ハイビジョンビデオカメラを教室の後ろに三脚を用いて設置して撮影し、その撮影された講義映像をi-Collaboを用いて自動編集し、パソコンで再生可能な動画コンテンツを作成します。その講義映像コンテンツとPower Point, Word, Excel, PDFファイルなどを組み合わせたリッチコンテンツをブラウザ(Content Cube)上で作成・編集・管理できるものです(図1参照)。学生の予習・復習に役立てられたり、病気や怪我などで授業に出席できない学生が病室や自宅からインターネットを利用して講義コンテンツの聴講に役立てられることが期待されております。



写真1. 講習会の様子1

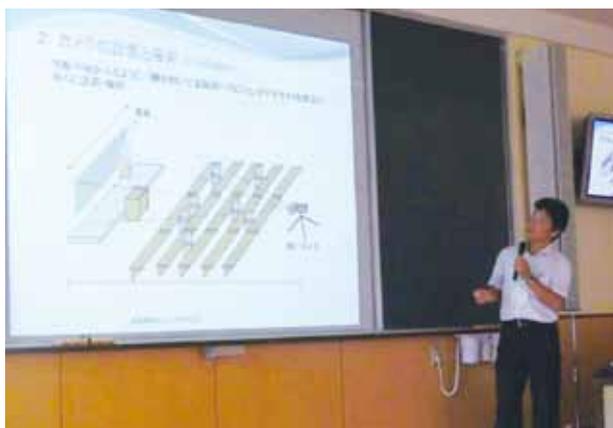


写真2. 講習会の様子2



写真3. 講習会の様子3



写真4. 講習会の様子4

講義録画配信システムの概要(熊本C)

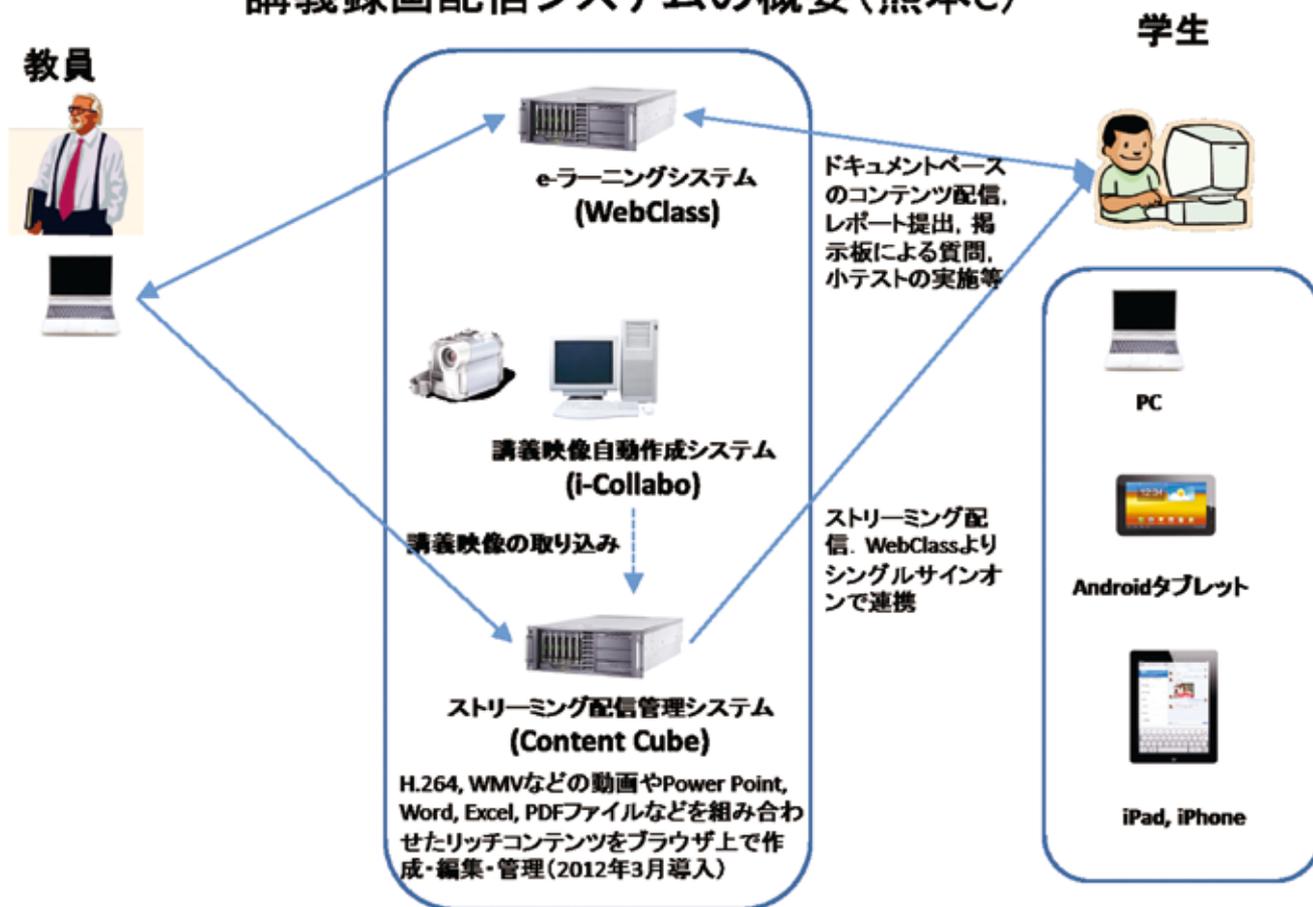


図1. 講義映像配信システムの概要

電子デバイス制御用ソフトウェア開発講座

八代キャンパス共通教育科 開 豊

八代キャンパスICTセンターにおいて、平成24年9月8日、15日、22日、29日の毎土曜日、4回連続で、社会人講座「電子デバイス制御用ソフトウェア開発講座」を開講しました。

この講座は、地域の企業エンジニアのために、ICTセンターと地域イノベーションセンターが共同で開催したもので、今年度から、初めて取り組んだ講座です。今回は、ICTセンターの藤本准教授と小島准教授が中心となって、近年、PICに代わって利用が拡大しているAtmel社のAVRマイコンを活用して、電子デバイス制御システムを作成するための基礎的知識の習得とプログラミング作成力の養成をめざしました。

今回、近隣の地域企業から11名の若手エンジニアの参加があり、講座では、基本的なAVRマイコンの仕様から、実際のスイッチやセンサー入力、7seg.LED表示プログラムの作成、そして割込み制御までを学び、最終日には各自が作成した自作プログラムの発表会も行って、好評のうちに閉幕しました。



ICTセンターでの講座の様子



AVRマイコンボード

平成24年度熊本県中学校 プログラミングコンテスト報告

八代キャンパス共通教育科 米沢 徹也

平成24年10月28日(日)に熊本高専八代キャンパス1F合同講義室を会場にして、平成24年度熊本県中学校プログラミングコンテストを開催しました。今年度で6回目となる本コンテストに5中学校から8名の中学生の応募があり、4組のチームまたは個人がプレゼンテーションを行いました。今年度のテーマは「エキサイトできるゲームをつくろう」

ということで、学校の勉強や様々な活動で忙しい中、一生懸命に制作された作品についてプレゼンテーションを行い、質問にも元気よく答えてくれました。発表された作品には完成度の高い楽しいものもあり、参加者は休み時間にお互いの作品で遊び、交流を深めていました。アンケートの結果からは、また参加したいという声も多く聞かれました。



プログラミングコンテストの様子

平成24年度高専学生によるIT講習会報告

熊本キャンパス共通教育科 石原 秀樹

熊本キャンパスでは、協調学習支援事業部の活動として産学連携協力の下、毎年1回地域住民の方を主な対象として、IT講習会を実施しています。内容としては、初歩的なパソコン操作の講習会であり、パソコン入門コース、文書作成初級コース、表計算初級コースの3コースに分けて各コース並行で行っています。

開始当初は本キャンパス教員が講師を務める形で実施していましたが、最近では専攻科生、5年生を中心とした学生に講師を引き受けて貰っています。こうすることにより、受講生の方々からはより親しみ易く、また講師の学生にとっては他人に教えることでより深く内容を理解するとともに、プレゼンテーション能力の向上にもつながることもねらっています。また、ボランティアによる単位認定も行っています。教員はこの講習会のマネジメント、講師学生へのサポートなどを行います。

平成24年度は平成25年2月26日から3月1日までの4日間、毎日18:00から20:00の日程で行いました。各コースの主な内容は次の通りです。

●パソコン入門コース

Windowsの基本操作からmailの使い方まで

講師：専攻科5年 長迫智也君

●文書作成初級コース

Wordを用いて、編集の基本から案内状の作成などの実用的な使い方まで

講師：専攻科1年 早田昂生君

●表計算初級コース

Excelを用いて、表計算の概念から関数等を用いた実用的な使い方まで

講師：専攻科1年 加藤孝史君

また、各コースとも受講生の方をサポートする補助を学生に依頼し、今回は合わせて15名に引き受けて貰いました。

受講生は、地元の合志市を中心として、定員各コース20名に対し、パソコン入門コース13名、文書作成初級コース14名、表計算初級コース15名の合計42名にお集まりいただきました。年齢層としては、30代から80代の方までおられ60代の方が半数で最多でした。定員より少なめの人数でしたが、その分、きめ細やかな対応ができたように感じられます。

講座中は講師、補助学生とも良く仕事をこなしてくれ、受講生の方からも好評でした。講座終了後のアンケート調査でも、親切だった、丁寧だったといった内容がよく見られ、概ね良い評価が得られました。また、補助の学生に家庭教師として招きたいとの声もありました。

その一方、より深く勉強されたい方にとっては日程が短かったようで、半数以上の方が短いという回答でした。

平成25年度以降も今回の結果を踏まえてより良い講座を目指します。



新ネットワークについて

熊本キャンパス共通教育科
ICT活用学習支援センター

石原 秀樹
藤本 洋一

平成25年4月から新しいネットワーク機器の運用が開始された。その概要を説明する。

熊本キャンパスは、前倒しで整備した管理棟および学生寮を除く全ての基幹スイッチを更新対象とした。センタースイッチは1号棟と3号棟の2か所へ設置したうえでスタック構成とし、冗長性を高めた。これにより、建屋間は10Gbpsまたは4Gbpsと更新前より大きい帯域を確保できた。また、エッジスイッチでの認証を本格的に導入した。なお、無

線LANは既存機器を継続使用とした。

八代キャンパスは今回の更新で、すべての基幹スイッチを認証スイッチとしたことで、エッジスイッチでも認証サービスが可能となった。また、演習室用のスイッチもこの更新に含め、10Gbpsで演習室の基幹スイッチを接続し、各演習室を独立したネットワークに変更した。無線LAN環境については、古い機器の更新と無線LANエリアの空白地帯の削減、利便性の改善を行った。

導入機器(熊本キャンパス)

機器名	台数	補足	
ファイアウォール	1台	機構一括調達	
ファイアウォールログサーバ	1台		
認証サーバ	2台(冗長構成)		* 認証サーバはH24度から運用
センタースイッチ	2台(スタック構成)	九州地区5高専6キャンパス一括調達	
フロントスイッチ	7台		
エッジスイッチ	43台		
メディアコンバータ	5台		
無線AP	0台		* 今回は無線LANの更新無し
無線LAN管理装置	0台		(既存機器を継続使用)

導入機器(八代キャンパス)

機器名	台数	補足
ファイアウォール	1台	機構一括調達
ファイアウォールログサーバ	1台	
認証サーバ	2台(冗長構成)	
センタースイッチ	2台(スタック構成)	九州地区5高専6キャンパス一括調達
フロントスイッチ	13台	
エッジスイッチ	27台	
メディアコンバータ	10台	
無線AP	41台	
無線LAN管理装置	1台	

八代キャンパス新教育用 電子計算機システムについて

八代キャンパス共通教育科 赤石 仁

平成21年10月に八代工業高等専門学校と熊本電波高等専門学校は高度化再編により新たに熊本高等専門学校となり、八代キャンパスにおいてはICTを核とした新たな三学科体制でのカリキュラムがスタートすることを見据え、平成20年度に第一演習室54台、第二演習室に50台、第三演習室に32台に加えて、これまでLL教室として利用されていた部屋を第四演習室として新たに51台のPCを導入し、英語学習のためのCALL(Computer Assisted Language Learning)システムの導入をおこなった。これらすべてのPCにはネットブート方式によるシステムが導入され、学生、教員の授業や自学自習において積極的に利用されており、また管理側においても保守運用の面での負担が大きく軽減された。

今回、上記システムの導入からすでに4年が経過し、第一～第三演習室のシステムにおいては今年度末でリースアップの時期を迎えると共に、各演習室PCの相対的な性能の低下と故障頻度の増加という問題の改善を図るため、第一～第四演習室を一括して更新することになった。また、学生の自学自習の利便性向上のため新たに図書館および学寮に設置するPCも今回のシステムに統合することになり、合計213台のPCをこれまでと同じネットブート方式によるシステムとして導入することとした。

導入された機器は以下の通り。

サーバ室…ネットサーバ×3台
 ファイルサーバ×1台
 ActiveDirectoryサーバ×2台
 無停電電源装置×2台
 メンテナンス用端末×1台
 KVMスイッチ×1式
 第1演習室……利用者用端末×52台
 教師用端末×1台
 教育用プリンタ×2台
 画像配信システム×1式
 (中間モニタ×26台含)
 第2演習室……利用者用端末×48台
 教師用端末×1台
 教育用プリンタ×2台
 画像配信システム×1式
 (中間モニタ×24台含)
 第3演習室……利用者用端末×30台
 教師用端末×1台
 教育用プリンタ×1台
 画像配信システム×1式

(中間モニタ×15台含)

第4演習室……利用者用端末×50台
 教師用端末×1台
 教育用プリンタ×2台
 図書館……利用者用端末×11台
 教育用プリンタ×1台
 男子寮南寮1階パソコン室・利用者用端末×2台
 教育用プリンタ×1台
 男子寮南寮1階学生役員室(旧補食室)…利用者用
 端末×1台
 男子寮南寮1階宿直室…利用者用端末×1台
 男子寮南寮2階談話室…利用者用端末×1台
 男子寮南寮3階談話室…利用者用端末×1台
 男子寮南寮4階談話室…利用者用端末×1台
 男子寮南寮5階談話室…利用者用端末×1台
 男子寮北寮2階談話室…利用者用端末×1台
 男子寮北寮3階談話室…利用者用端末×1台
 男子寮北寮4階談話室…利用者用端末×1台
 女子寮1階談話室…利用者用端末×3台
 教育用プリンタ×1台
 女子寮2階談話室…利用者用端末×1台
 女子寮3階談話室…利用者用端末×1台
 女子寮4階談話室…利用者用端末×1台

電気系統の配線は、各演習室の床下の電源が改めて全てハーネスプラグによって配線された。前システムでは第一演習室の床下の電源配線が、専門棟4階からの引越しの際に、漏電も起こりうる配線となっており、パナソニックIS様の現地調査の際にその問題が発見され、改めて配線する事となった。

システムは、直前まで使用していたシステムもパナソニックIS様が導入していたため、前システムと類似したVHDというネットブートシステムが導入される事となった。

設定上の大きな変更は、移動プロファイルによる設定から、フォルダリダイレクトによってプロファイルを獲得する方式となった。これにより、デスクトップ上にユーザが不用意に大きなファイルを置く事による起動時の負荷が増す問題は解消される事となった。しかし、ユーザー個々の設定の柔軟さは失われる事となった。

導入では、1月から事前打ち合わせがおこなわれ、3月中旬から、土日深夜作業を経て導入作業。4月に入っても問題の調整をパナソニックIS様にさせていただくことが続き、4月中旬にシステムがおおよそ安定した。

今回のシステム更新により演習室だけではなく、図書館や学寮においてもこれまで以上に快適に使用できる環境が整備され、授業や自学自習は勿論のこと、公開講座やセミナー等での積極的な利用が期待される。

平成24年度 eラーニング高等教育連携 (eHELP)全体会議報告

人間情報システム工学科 小松 一男

平成24年7月31日(火) および平成25年1月7日に東京(会場:銀座会議室三丁目)において、第1回および第2回のeラーニング高等教育連携(eHELP)全体会議が開催され、その会議に参加しましたのでご報告いたします。

本会議は、eHELP設立当初の平成16年度から継続して開催されており、参加機関が一堂に会してeラーニングに関する意見交換を行っております。会議では、まず主幹校の長岡記述科学大学 福村教授から挨拶があり、続いて各機関のeラーニング取り組み状況、単位互換における授業配信・受信状況、活動方針の討議、eHELPに設置されている5研究グループの研究報告などが行われました。研究グループでは、「eラーニングにおける学習スタイル研究グループ」、「eラーニングのためのバイオセンシング研究グループ」、「eラーニングの質の向上に関する調査研究グループ」、「eラーニングにおけるPBLモデルの研究グループ」、「eラーニングにおけるコンテンツ配信研究グループ」があり、それぞれのグループでeラーニングの研究が進められており、その研究成果をこの会議で毎回報告がなされています。議事および研究報告の後には、質疑応答があり、各機関の間で活発な意見交換がなされ、大変有意義な会議となりました。

【eラーニング高等教育連携(eHELP)とは】

大学、高専など全国の高等教育機関の幅広い協力体制を構築し、大規模なeラーニングによる教育実践を展開することによって、実績に裏打ちされた新しいeラーニング実践モデルを構築することを目的としています。

【eラーニング高等教育連携(eHELP)

平成24年度参加機関:25機関】

千葉大学、長岡技術科学大学(主幹事校)、豊橋技術科学大学、広島大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、釧路工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、八戸工業高等専門学校、仙台高等専門学校、福島工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、松江工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、熊本高等専門学校、放送大学ICT活用・遠隔教育センター

障害・メンテナンス記録 (熊本キャンパス)

月 日	活動内容
4月11日 12日	寮学生ネットでトラフィック異常が発生し、サブネットマスク変更で応急的に対処
4月12日	1号棟、管理棟間の光ケーブルに異常が見つかり、未使用回線に切り替えることで対処
6月15日	ログサーバがクラッシュしたため、別のサーバへ機能を移す
6月20日 21日	学生用web mailが外部よりクラッキングされていることが判明し運用停止して代替機を立てた
6月26日	寮学生ネットのHUBの1台が故障したため交換
7月2日	八代キャンパス側でコンテンツキューブの動画が再生されない問題を修正
9月20日	WebClassとKシステム Ver9.06dアップデート
11月7日	ICT演習室PCのライセンスに関する不具合の修正
12月17日	WebClassとKシステム Ver9.06d2アップデート
12月25日	コンテンツキューブのサーバ用ウィルス対策ソフトの更新
3月13日	WebClassとKシステム Ver9.07アップデート
4月1日	WebClassのLDAPサーバ切り替え

障害対応・メンテナンス状況の作業報告

—サーバ関係— (八代キャンパス)

ICT 活用学習支援センター 小島 俊輔

八代キャンパスでは、平成19年に導入した基幹サーバ群の老朽化に伴い、平成24年5月に新たな学内ネットワーク基幹サーバを6台導入した。導入したサーバのスペックを表1に示す。

表1 導入した基幹サーバの基本スペック

項目	性能
CPU	Xeon 3.2GHz
メインメモリ	16GB
外部記憶装置	SAS 1GB×2(RAID1)
筐体	ラックマウント1U
OS	CentOS 6.3

DNS、DHCP、proxy、学内Webなどの提供サーバとして使用するのであれば、多少オーバスペックなサーバ群である。しかしながら、このスペックとした理由は、各物理マシンをホストとして、ゲストOS、つまり仮想マシンによる運用を考慮したためである。1台の物理マシンのリソースを、複数台の仮想マシンが共有して使用することで、リソースの無駄が大幅に省け、また、次のリプレースの際に、仮想マシンごとのホストコンピュータに引っ越すことが可能となるというメリットもある。仮想マシンとしては、CentOSに標準で実装されているKVMを使用した。

現在、老朽化が進んだサーバから、順次、新たなサーバに仮想マシンとして移行する作業を行っており、また、学内の教職員から相談のあった特定用途のサーバを仮想マシンとして提供するサービスを実施している。ここで、今回導入したサーバ群6台の主な用途を表2に示す。

表2 導入したサーバの主な用途と提供サービス

サーバ名称	用途
サーバ1	DMZ基幹ネットワークサービス
サーバ2	DMZその他サービス 学生向けのプログラム課題提出システム ビデオサーバ、鑄造紹介
サーバ3	教員VLAN用基幹ネットワークサービス
サーバ4	proxyサーバ
サーバ5	学生VLAN用基幹ネットワークサービス
サーバ6	学生VLAN用その他サービス 夕竜(学寮)、KVM管理運用・練習機

サーバは、DMZ用、学生VLAN用に各2台ずつ、教員VLAN用に1台設置した。基幹向けのサービスを提供するサーバについては、教職員から要求があったサーバ群とは別のサーバとした。これは、ホストOSのリソースが様々な仮想マシンのサービスにより消費されることで、基幹ネットワークのサービスの質が低下するのを防ぐ狙いがある。また、proxyサーバとなるサーバ4については、仮想マシンは構築せず、専用サーバとした。これは、proxyサーバが教員や学生のVLANとは別セグメントに属すること、また、学内で最もリソースを消費するサービスであることが主な理由である。特に、proxyサーバにおいては、学内から学外に対するhttpのアクセスログは日々増え続けており、その量も膨大となる。そこで、ハードディスク等のリソースを確保するため、単独のサーバとした。これにより1年程度はログの保存が可能となった。

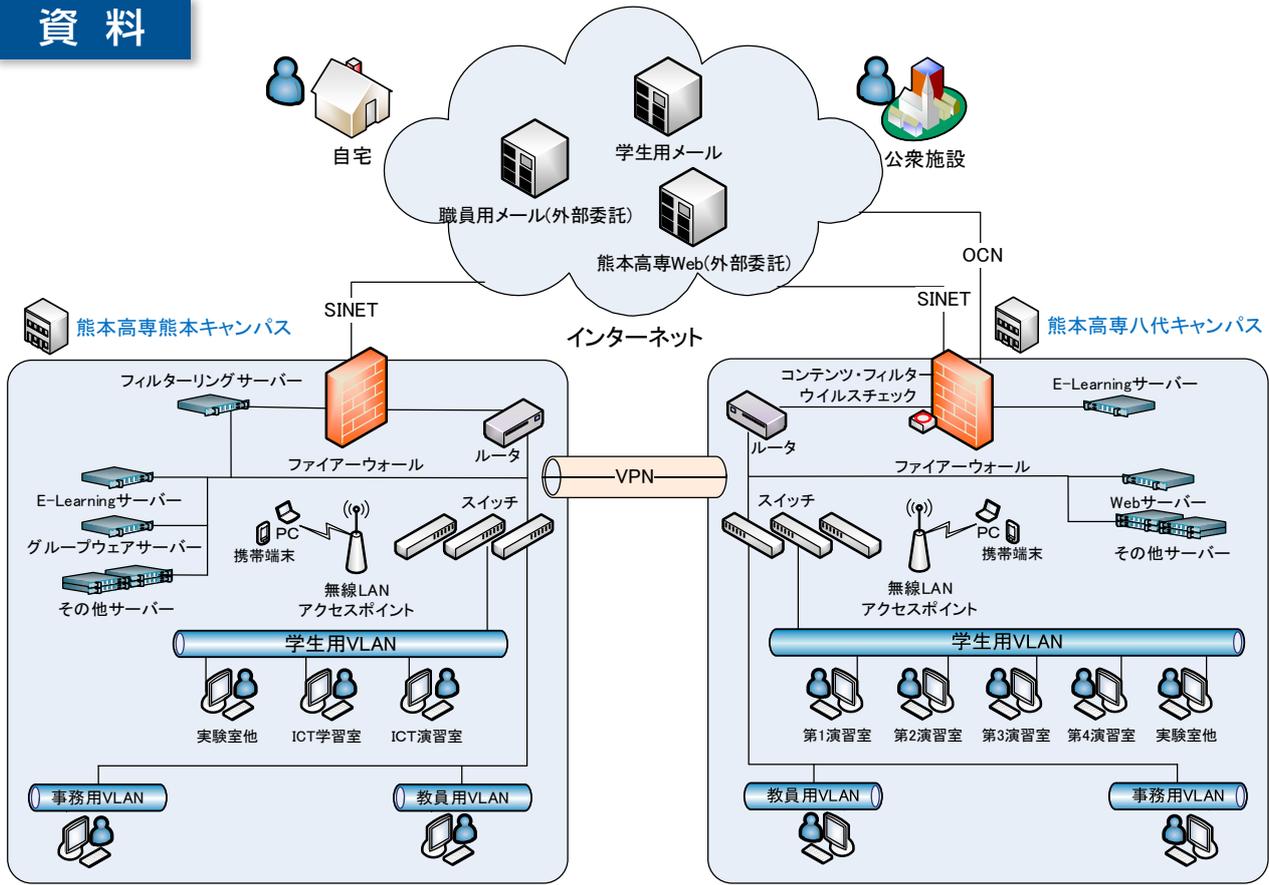
しかしながら、仮想サーバによる各種サービスの運用では、信頼性の面で不安が残る。たとえば、ホストOSとゲストOSのいずれかに障害が発生すると、サービスが停止する。これにより、単純計算ではあるが、故障率は2倍となる。また、障害が発生した後に、物理的なハードディスクのように、他のマシンにHDDを接続して重要なデータを取り出すことができなくなる。そこで、バックアップ用のサーバを25年3月に更新した。このマシンは3TBのハードディスクを3台搭載した通常の市販パソコンであり、学内の基幹サーバのすべてのバックアップを保存できるようにしている。バックアップサーバに安価なパソコンを使用したことで、同等のマシンを2台確保し、冗長性を持たせることができた。これにより、1台のハードウェアが故障しても、他の1台のハードウェアと交換することで、仮復旧なども可能となる。今後、ますます増えるサーバ群と、そのバックアップの取り方について、運用面での基本方針を考えていかなければならないだろう。

教育用システム障害・メンテナンス記録

(八代キャンパス)

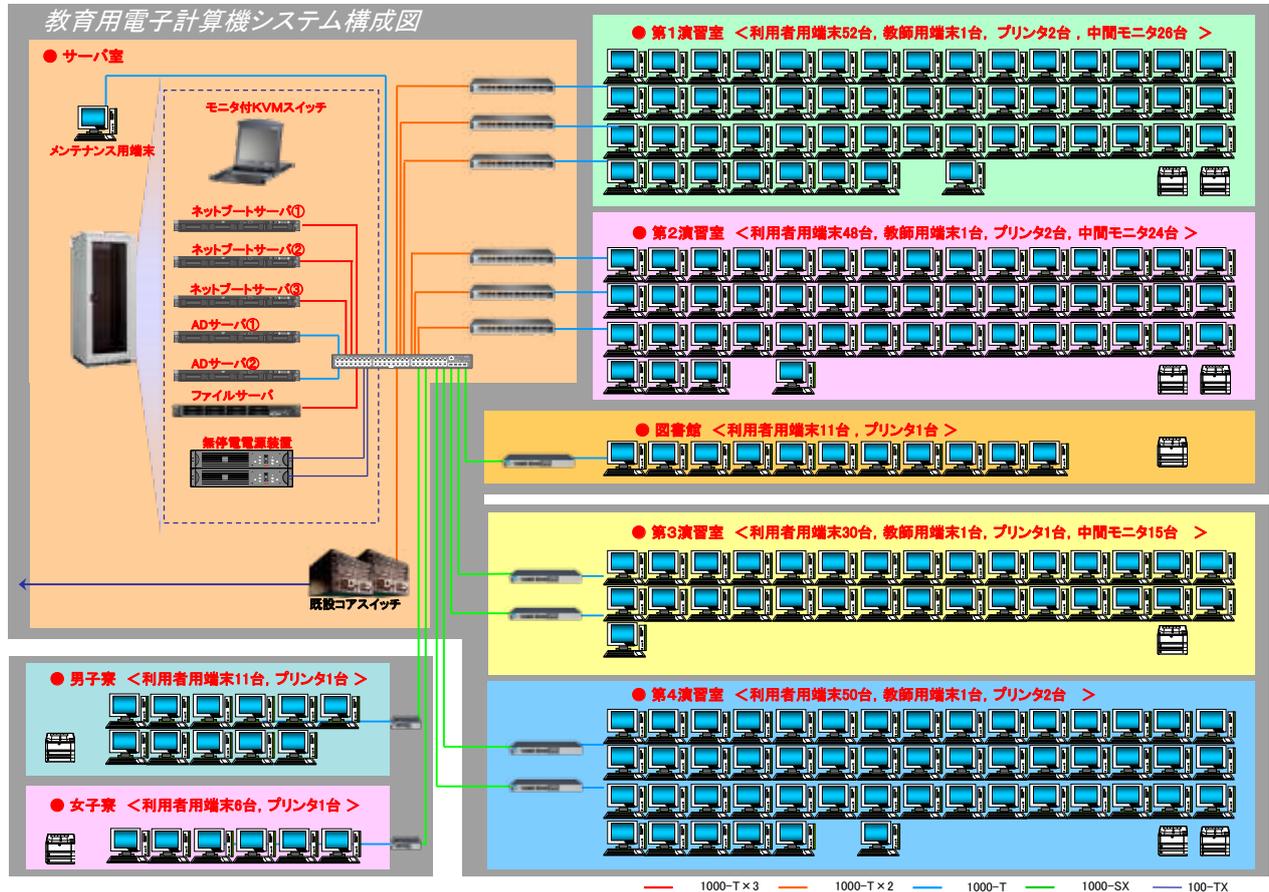
機械知能システム工学科 村山 浩一

月 日	障害/メンテナンス	内容	原因	対処
4月2日	第二演習室	PC(SAL43)の破損	学生の不注意	代替機への交換
4月18日	第二演習室	中間モニタ不良	不明	RGBケーブルおよびユニットの交換
4月18日	第二演習室	PC(SAL43)の故障	不明	メモリの再取付
4月20日	アカウント作成	事務職員のアカウントの作成 (無線LAN利用のため)		
4月24日	第二演習室	PC(SAL43)の故障	不明	代替機への交換
5月7日	ソフトウェアインストール作業	電子黒板用ソフトウェア		
5月14日	第二演習室	PC(SAL101)モニタの不良	不明	RGBケーブルの交換
5月31日	ソフトウェアインストール作業	e-learningコンテンツビューアー (ThinkBoardプレーヤー)		
6月18日	ソフトウェアインストール作業	SketchUPのバージョンアップ		
6月25日	アカウント調整	教員のアカウント調整		
6月29日	第四演習室	CALLシステムの不調	不明	別手段での運用で対処してもらう
8月1日	ウィルス定義ミラーサーバ	定義ファイルの更新不良	不明	サーバキャッシュのクリア
8月3日	アカウント調整	オープンキャンパス用ゲストアカウントの調整		
8月16日	アカウント調整	公開講座用ゲストアカウントの調整		
9月28日	第一演習室	マウスの不良	経年劣化	交換
10月2日	アカウント作成	短期留学生用アカウントの作成		
10月17日	ソフトウェアインストール作業	SloidWorksのバージョンアップ		
10月19日	第二演習室	プリンタの破損	不明	メーカー修理
11月7日	アカウント調整	1MI学生2名のプロファイルフォルダの初期化		
11月14日	第三演習室	PC(CAL05, CAL18)の故障	不明	メモリの再取付
12月13日	アカウント調整	1MI学1のプロファイルフォルダの初期化		
12月14日	第一演習室	PC(HAL18)の故障	不明	メモリの再取付
12月17日	第二演習室	PC(SAL33)の破損	不明	代替機への交換
12月21日	第二演習室	PC(SAL07)の不調	不明	IOサーバの割当変更
1月11日	第二演習室	PC(SAL44)の故障	不明	メモリの再取付
2月24日	アカウント作成	短期留学生用アカウントの作成		
3月11日	ファイルサーバ	ファイルサーバのバックアップ		



新ネットワークシステム概要図

新教育用システム概略図 (八代キャンパス)



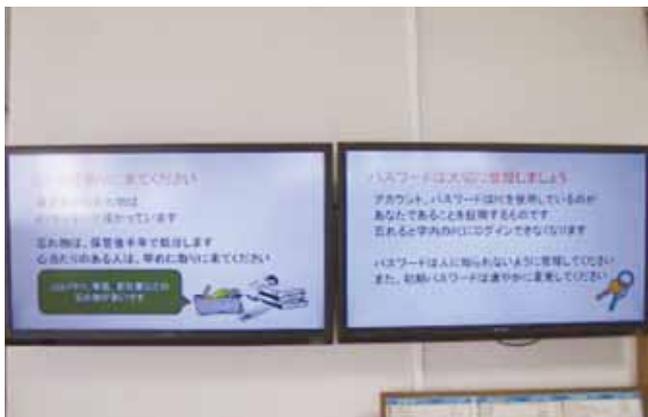


3D-テレビジョン



DVDプレーヤー

英語学習用として図書館パソコン室に2セット導入しました。
学生の空き時間にはいつでも利用できます。(八代キャンパス)



電子掲示板



電子掲示板

40インチの液晶テレビ2台をICT活用学習支援センターからの連絡や
注意喚起に用いるために設置しました。(八代キャンパス)



2階廊下のバリアフリー化

ICT活用学習支援センターへの2階通路にあった階段を取り除きバリアフリー化しました。
(八代キャンパス)



講義収録・動画コンテンツ作成システム

動画コンテンツを作成するために持ち運び可能な小型のシステムを導入しました。
(八代キャンパス)

H24年度 演習室インストールソフトウェア一覧

	ソフト	バージョン	第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室	使用授業
1	adobe reader	8	○	○	○	○	
2	Arduino	18	○	○	○	○	複合工学セミナー
3	bsch3v		○	○	○		5M回路設計, 複合工学セミナー
4	Calabo EX					○	
5	Common SQL Environment	ver1.59	○	○	○		5Eデータベース
6	Delphi 6 Personal Edition		○	○	○		基礎セミナー
7	DOGA-E		○	○	○		E科セミナー
8	EAGLE	4.16r2	○	○	○		
9	Eclipse	3.2	○	○	○		基礎セミナー
10	ESET NOD32	4	○	○	○	○	
11	ezhtml	7.6	○	○	○	○	5Mコンピュータネットワーク
12	ffftp		○	○	○	○	
13	flash player		○	○	○	○	
14	gcc developer light	2.0.1.3r5	○	○	○		ロボコン部
15	Iconworks		○	○			基礎セミナー
16	ieseteditor	1.05	○	○	○		5Mコンピュータネットワーク
17	ifgif	0.12	○	○	○		5Mコンピュータネットワーク
18	ifpng	0.61	○	○	○		5Mコンピュータネットワーク
19	Illustrator CS	14			○		
20	infocasl	2.0.10	○	○	○		
21	inkscape	0.46	○	○	○		E科セミナー
22	java SDK	6 Update18	○	○	○	○	基礎セミナー
23	JWCAD	6.01	○	○	○	○	
24	lhacaデラックス版		○	○	○	○	
25	Mathtype				○		
26	Matlab4.2		○	○			5M構造計算力学, S2数値設計工学, 5Mロボット工学
27	Matlab5.3				○		5M構造計算力学, S2数値設計工学, 5Mロボット工学
28	Matx VisualC++2005	5.5.37	○	○	○	○	5M制御工学
29	Microsoft Office Professional Plus 2007		○	○	○	○	
30	MPLAB	7.6	○	○	○		5M回路設計, 複合工学セミナー
31	PCBE	0.48	○	○	○		5M回路設計, 複合工学セミナー
32	Photoshop Elements6				○		3AC設計製図, 5Bプレゼンテーション技法
33	pictbear		○	○	○		
34	processing	0.9	○	○	○	○	
35	Qtcreator		○	○	○		オープンキャンパス
36	Robolab	2.9.4			○		1MIものづくり実習I
37	rs232c		○	○	○		1MIものづくり実習
38	scilab	5.12	○	○	○		5Mロボット工学, (4M総合実習)
39	securelockware	2.62	○	○	○		
40	SolidWorks2009		○	○	○		1MIものづくり実習, 1MI製図基礎, 2MI製図基礎, 4MI設計製図, 5M総合設計, 5M構造計算力学
41	Symantec Virus Software		○	○	○	○	
42	truecrypt	6.3a			○		
43	UTF-8 teraterm pro		○	○	○	○	
44	VID管理ツール(クライアント)		○	○	○	○	
45	VIDメンテナンスツール(クライアント)		○(学生用PC)	○(学生用PC)		○	
46	VIDメンテナンスツール(サーバ)		○(教師用PC)	○(教師用PC)	○		
47	VisualBasic6.0		○	○	○		2MI情報基礎, 3MIVBセミナー, 4MI応用情報処理, 5Mコンピュータ計測
48	VisualStudio2008		○	○	○	○	2MI情報基礎, 3MIVBセミナー, 4MI応用情報処理, 5Mコンピュータ計測
49	WinAVR + AVRStudio4		○	○	○	○	
50	リモートセンシング解析ソフト ReDAPPC	2.2	○	○	○		5Cリモートセンシング
51	一言メモ		○	○	○	○	3MI応用情報処理, 5Mコンピュータネットワーク
54	立体グリグリ	3.3	○	○	○		1MI製図基礎

資料

平成24年度 ICT活用学習支援センター演習室 前期時間割

曜日	時限	情報第1演習室	情報第2演習室	情報第3演習室	情報第4演習室
月	1	製図基礎 II 2MI 井山			
	2		電子応用機器 5E 村田勝	コンパイラ 5E 小島	回路設計 5M 村山
	3	ネットワーク入門 2MI 藤本	機械知能システム工学実験 I 3MI 村山	OS 5E 池田	英語IV 4B 高木・石貫
	4	応用情報科学 専1 池田	機械知能システム工学実験 I 3MI 村山	複合工学セミナー I 4・5年 磯谷・入江	応用力セミナー 4年 宇ノ木
	放課後		17:00-19:00 情報システム研究部		
火	1	情報基礎 I 1MI 磯谷・赤石	コンピュータネットワーク 5M 小田	プログラミング言語 5E 米沢	メディア造形 3AC 下田
	2	設計製図 4M 田中禎			英語IV 4C 高木
	3	基礎情報工学 2MI 米沢・藤本	情報信号処理 専1 (E) 池田	リモートセンシング 5C 齊藤	英語IV 4E 高木
	4				
	放課後		17:00-19:00 情報システム研究部		
水	1	数理解析 5M 開	機械設計製図 I 3MI 福田	ソフトウェア工学 5E 小島	情報処理 4B 村田美
	2	情報基礎 I 1AC 磯谷・赤石	基礎情報工学 2AC 米沢・小島		英語IV 4M 高木
	3	ネットワーク 5E 藤本	リサイクル工学 5M 井山	ものづくり実習 I 1MI 滝・他	
	4	創造演習 1AC 藤野・他		ものづくり実習 I 1MI 滝・他	
	放課後		17:00-19:00 情報システム研究部		
木	1	プログラミング基礎 3MI 小島・米沢・西村	製図基礎 I 1MI 田中裕		英語V 5選 岩下
	2	ネットワーク入門 2AC 藤本	コンピュータ言語 4E 米沢	データ構造とアルゴリズム 5E 池田	応用情報処理 4C 藤野
	3	プログラミング基礎 3AC 小島・藤本・赤石		データベース 5E 村田美	上級英語 専1 岩下
	4	ネットワーク入門 2BC 藤本	情報基礎 I 1BC 磯谷・赤石		コンピュータシステム 4E 池田
	放課後		17:00-19:00 情報システム研究部		
金	1	コンピュータ計測 5M 開	応用情報処理 4M 宮本	構造計算力学 5M 田中裕	プログラミング 4E 岩崎
	2	プログラミング基礎 3BC 小島・池田・村田	基礎工学演習 専1 井山・他		
	3	基礎情報工学 2BC 米沢・村田	総合設計 5M 豊浦		地形情報処理 3AC 入江
	4		総合設計 5M 豊浦		
	放課後		17:00-19:00 情報システム研究部		
土			9:00-12:30 情報システム研究部		

平成24年度 ICT活用学習支援センター演習室 後期時間割

曜日	時限	情報第1演習室	情報第2演習室	情報第3演習室	情報第4演習室
月	1	製図基礎 II 2MI 井山			
	2	電子応用機器 5E 村田勝	数理解析 5M 開	コンパイラ 5E 小島	
	3	データ解析 専1 大河内・小島	総合実習 I 3MI 村山・毛利	OS 5E 池田	応用情報処理 4C 藤野
	4	マイコンプロ 2BC 藤本・開	総合実習 I 3MI 村山・毛利	複合工学セミナー I 4・5年 磯谷・滝	進路セミナー(英語) 4・5年 高木
	放課後		17:00~19:00 情報システム研究部		
火	1	情報基礎 I 1MI 磯谷・赤石	メディア造形 3AC 岩崎		情報処理 4B 村田美
	2	設計製図 4M 田中禎			
	3	基礎情報工学 2BC 米沢・藤本			英語IV 4B 岩下
	4				
	放課後		17:00~19:00 情報システム研究部		
水	1	マイコンプロ 2AC 藤本・開	機械設計製図 I 3MI 井山	ソフトウェア工学 5E 小島	スピーチコミュニケーション 専2 宇ノ木
	2	マイコンプロ 2MI 藤本・開	基礎情報工学 2AC 米沢・小島	情報認識 5E 池田	創造演習 1AC 藤野他
	3	情報基礎 I 1AC 磯谷・赤石	情報電子基礎実験 3BC 池田・村田美・中島	ものづくり実習 I 1MI 滝他	地形情報処理 3AC 入江
	4		情報電子基礎実験 3BC 池田・村田美・中島	ものづくり実習 I 1MI 滝他	
	放課後		17:00~19:00 情報システム研究部		
木	1		製図基礎 I 1MI 田中裕		
	2	地形情報処理 5C 入江	コンピュータ言語 4E 米沢	データ構造とアルゴリズム 5E 池田	科学技術英語 専1 村山・湯治
	3	プログラミング基礎 3MI 小島・米沢・西村			英語V 5選 宇ノ木
	4	情報基礎 I 1BC 磯谷・赤石	コンピュータシステム 4E 池田	データベース 5E 村田美	設計製図 3AC 下田
	放課後		17:00~19:00 情報システム研究部		
金	1	総合設計 5M 豊浦	応用情報処理 4M 宮本		プログラミング 4E 岩崎
	2	プログラミング基礎 3BC 小島・池田・村田	基礎工学演習 専1 井山他	プレゼンテーション技法 5B 中島	プレゼンテーション技法 5B 中島
	3	基礎情報工学 2BC 米沢・村田	プログラミング基礎 3AC 小島・藤本・赤石		
	4				
	放課後		17:00~19:00 情報システム研究部		
土			9:00~12:30 情報システム研究部		

Web Class (eラーニング) の利用状況

人間情報システム工学科 小松 一男

平成24年11月に、熊本キャンパスでのWebClassとeラーニング教材に関する利用状況等を把握し今後の教育改善に役立てることを目的として、教員と学生にアンケートを実施いたしました。その以下は結果をまとめたものです。

2. 実施方法:

(1) 教員用アンケート

(全教員63名中46名回答、回答率73%)

WebClassのアンケートを11月8日(月)～11月26日(金)までの期間に、WebClassにより行った。

(2) 学生用アンケート

(全学生783名中738名回答、回答率85%)

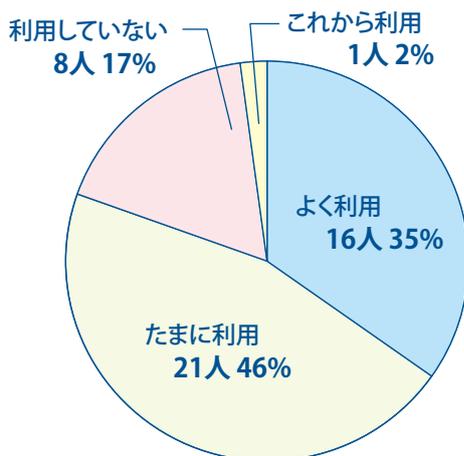
WebClassのアンケートを11月8日(月)～11月26日(金)までの期間に行った。

3. 教員対象WebClassに関するアンケート結果

(全教員63名中46名回答、回答率73%)

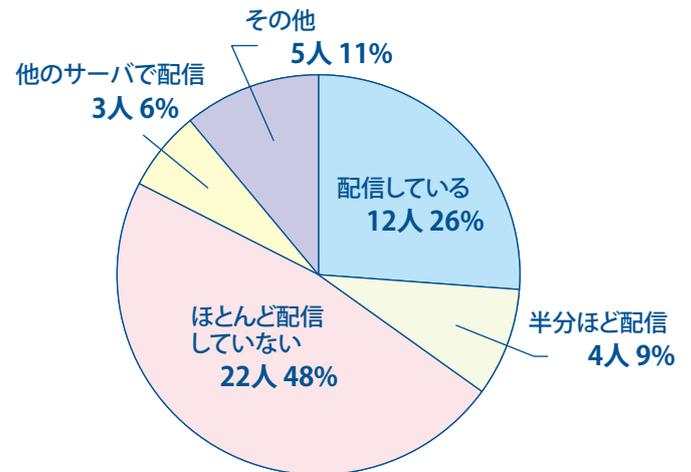
設問1. WebClassをよく利用していますか?

1. よく利用している
2. たまに利用している
3. 全く利用していない
4. その他



設問2. 担当科目の前年度定期試験問題とその解答をWebClassにより配信していますか?

1. ほとんど全ての担当科目について配信している
2. 半分程度の科目について配信している
3. ほとんど配信していない
4. 他のサーバより配信している
5. その他



設問3. WebClassを利用した教材コンテンツがありましたら以下にご記入ください。

科目名(対象学年・クラス)ごとに、学習参考資料、課題提示、レポート提出、小テスト等の内容を簡単に記入してください。

(別途教員専用ページ等で作成されている方は「教員専用ページ等」と明記して科目名と内容を簡単に記入してください。)

23名の回答内容(23名が教材コンテンツ作成済み)

「教員専用ページ等」

Weclassの運用をはじめる前から、学科サーバーで学習資料を公開して来ましたので、Webclassは使いませんでした。オリジナルコンテンツを多く作成して学外の人にも広く使ってもらうと思っているので、学科を移ってから、学外サーバーで学習資料の公開をしています。

具体的には、講義資料、演習テキストのPDF、演習のソースファイル、演習で使うCAD等ツールの使用方法や使用例、など。

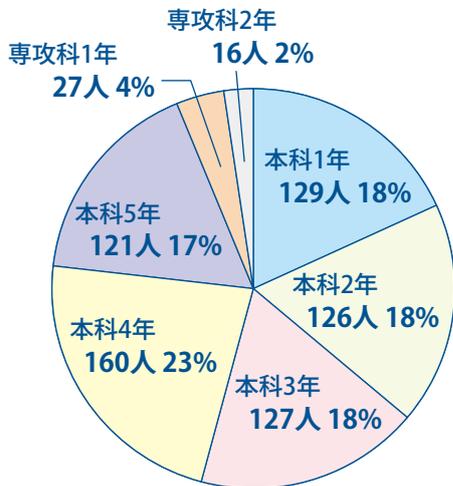
<p>【英語3年生】</p> <p>課題をWebClassに提出する場合がある。</p>
<p>■ヒューマンメディア工学 (T-4)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 毎回のプレゼンスライドをPDFにしたものを配布 - 課題レポートの提出受付 <p>■応用プログラム1 (T-4)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 毎回のプレゼンスライドをPDFにしたものを配布 - 課題レポートの提出受付 <p>■応用プログラム2 (T-4)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 毎回のプレゼンスライドをPDFにしたものを配布 - 課題レポートの提出受付 <p>■情報通信工学実験 (T-4)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 実験テキストの配布 (一部テーマ) - 実験レポートの提出受付 (一部テーマ)
<ul style="list-style-type: none"> ・I5マルチメディア活用論 ・I5情報工学実験 ・I4計算機工学 <p>の授業・実験について、学習参考資料、課題提示、レポート提出に使っています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・試験の過去問 ・問題集の解答 ・夏休み課題・解答 ・問題集の解説の掲載、公式のまとめプリントなどで利用。
<p>CI2 情報処理(出席処理、レポート受領、定期試験を実施)</p> <p>CI3 プログラミング通論(授業資料の提示、レポート受領)</p> <p>CI3 電気回路(授業資料の提示)</p>
<p>TE1 創造基礎工学</p> <p>Scratchというソフトを用いたプログラミング学習導入教育。</p> <p>PDFのテキストをウェブクラスで配布し、作成したプログラムをウェブクラスで提出してもらっている。</p>
<p>TE3 工学実験の実験の連絡事項を掲載している。</p>
<p>オペレーティングシステムI (I4) 学習参考資料、課題提示</p> <p>オペレーティングシステムII (I5) 学習参考資料、課題提示</p> <p>情報理論 (I5) 学習参考資料、課題提示</p> <p>上記内容とほぼ同じものを教員専用ページでも提示している。</p>
<p>コンピュータアーキテクチャ (人間情報システム工学科3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で使用したパワーポイントのファイル <p>コンピュータアーキテクチャ (情報工学科5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で使用したパワーポイントのファイル

<p>情報処理 (H12年) : 演習課題の提示、レポートの提出、学習参考資料の提示、演習課題の進捗状況の提出など。</p> <p>数値計算論 (I4年) : 自作テキストの提示、演習課題の提示、レポートの提出。</p> <p>情報工学実験 (I4年) : 実験課題の提示。</p> <p>システム制御理論: 全講義の動画の配信、レポート課題と提出。</p>
<p>デジタル信号処理概論Ⅰ、Ⅱ: パソコン演習課題レポートの内容提示、レポート提出</p>
<p>プログラミング演習 (H13) 演習課題や、スケジュール、参考資料、レポート提出に利用。</p> <p>プログラミング特論 (I4) 演習課題や、スケジュール、過去のテスト問題の提示、参考資料、レポート提出に利用。</p>
<p>教材コンテンツ作成システム「i-Collabo.AutoRec」を利用して、他のサーバより下記の授業風景を配信している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TE3 電子回路Ⅰ ・A1 デジタル電子回路
<p>計算機工学 (E4) 学習参考資料、課題提示、レポート提出、小テスト情報通信工学実験 (TE3) 学習参考資料、課題提示、レポート提出</p> <p>ものづくり基礎 (TE3) 学習参考資料、課題提示、レポート提出</p>
<p>数理情報工学: ガイダンス資料、レポート提出状況など</p> <p>離散数学: ガイダンス資料、講義資料など</p>
<p>制御情報システム概論 (CⅠ-1年) 授業の関連する資料、レポートの作成要領などがWebclassを利用して配信する。</p> <p>基礎電気学Ⅰ (CⅠ-1年) 授業中学生の質問と回答、練習問題と一部の試験テスト回答をWebClassにあげております。</p>
<p>専攻科「コミュニケーション英語」学習参考資料</p>
<p>全科目共通で、講義資料、レポート課題、過去問を配信。</p>
<p>電子工学演習Ⅱ、Ⅳ (4年共通選択) レポート模範解答</p>
<p>電磁気学のテキストのビデオ講座(T3、T4用)</p> <p>電磁気学の一部の小テスト(T4用)</p>
<p>物理Ⅰ(2年)</p> <p>演習問題解答例、小テスト解答例、夏休み課題、過去問</p> <p>物理Ⅱ(3年)</p> <p>演習問題解答例、小テスト解答例、夏休み課題、過去問</p>
<p>物理Ⅰ、練習問題詳解</p> <p>物理Ⅱ、練習問題詳解</p>

4. 学生対象WebClassに関するアンケート結果
(全学生783名中706名回答, 回答率90%)

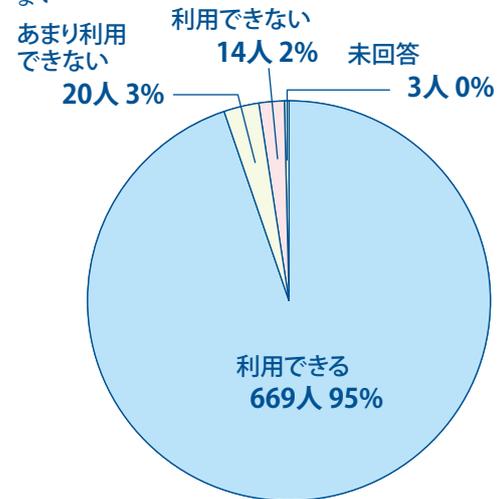
設問1. 学年を選択してください。

1. 本科1年 2. 本科2年 3. 本科3年
4. 本科4年 5. 本科5年 6. 専攻科1年
7. 専攻科2年



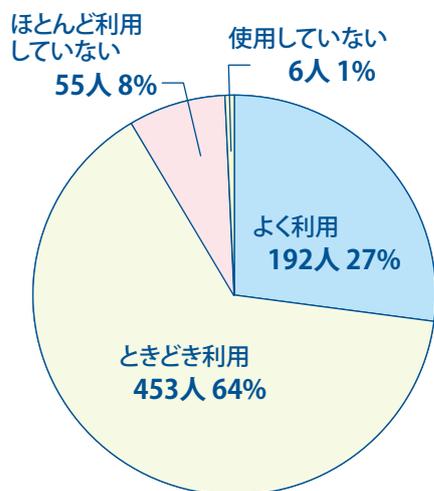
設問3. 自宅からWebClassが利用できますか？

1. 利用できる
2. インターネットにつながっているが自分専用パソコンがない等であまり利用できない
3. インターネットにつながっていない等で利用できない



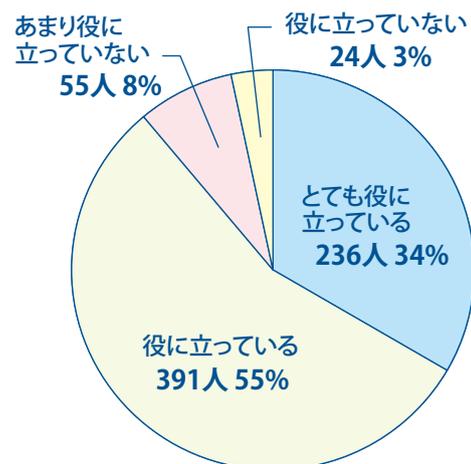
設問2. WebClassを利用していますか？

1. よく利用している 2. ときどき利用している
3. ほとんど利用していない
4. 利用していない



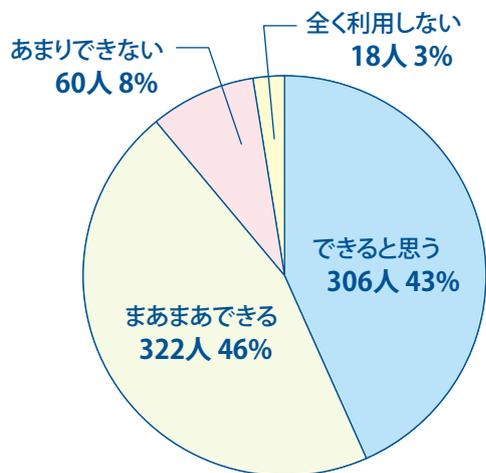
設問4. WebClassを利用した学習テキスト、課題や資料提示、レポート提出、小テスト実施等の教材コンテンツが学校や自宅などでの自学自習に役に立っていますか？

1. とても役に立っている 2. 役に立っている
3. あまり役に立っていない
4. 利用できる教材コンテンツが少ないなどで役に立たない



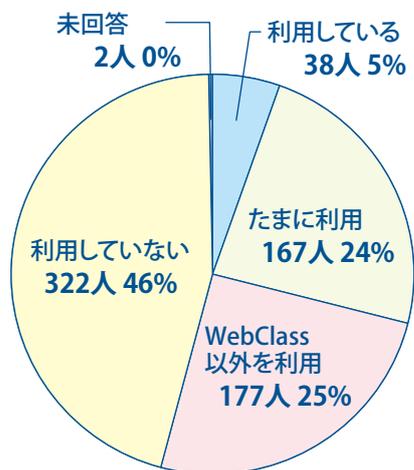
設問5. WebClassを利用した上記の教材コンテンツが充実した場合、自学自習を今よりも積極的に取り組めると思いますか？

1. できると思う
2. まあまあできると思う
3. あまりできないと思う
4. 全く利用しないと思う



設問6. WebClassの掲示板やメール機能を利用した先生とのコミュニケーションについて

1. 利用している
2. たまに利用している
3. WebClass以外の教員専用ページやメールを使っているため利用していない
4. 全く利用していない



WebClass の利用状況集計 H24年度コースごとのコンテンツ利用状況(八代キャンパス)

学年	学科	コース名	コンテンツ種類			
			資料	テスト/アンケート	ユニット	会議室
1	ALL	情報基礎	○	○		
1	AC	創造演習	○	○		
1	BC	生物工学演習Ⅰ	○			
1	BC	生物工学基礎実習	○			
2	ALL	ネットワーク入門	○	○		
2	ALL	マイコンプログラミング入門	○	○		
2	ALL	基礎情報工学	○			
2	ALL	基礎電気工学	○	○		
2	BC	英語Ⅱ		○		
2	BC	化学基礎	○			
2	BC	生物工学実習	○			
3	ALL	プログラミング基礎	○	○		
3	AC	メディア造形	○	○		
3	BC	HR	○			○
3	BC	バイオ基礎化学	○	○		
3	BC	化学系基礎実験	○			
3	BC	情報電子基礎実験	○	○		
4	ALL	英語ⅣB		○		
4	ALL	複合工学セミナーⅠ	○			
4	YM	機械電気総合実習	○			
4	YE	プログラミング	○	○		
4	YB	基礎物理化学	○	○		
4	YB	情報処理	○	○		
4	YB	生物化学基礎実験	○			
4	YB	創造実験	○			○
4	YB	分析化学	○			
4	YB	有機化学	○			
5	ALL	英語Ⅴ		○		
5	YM	回路設計	○	○		
5	YE	HR	○			
5	YE	コンパイラ	○	○		
5	YE	ソフトウェア工学	○	○	○	
5	YE	データベース	○	○		
5	YE	ネットワーク	○	○		○
5	YE	課題研究		○		
5	YB	安全工学	○			
5	YB	化学物質セミナー	○			
5	YB	課題研究	○			○
5	YB	環境科学	○	○		
5	YB	高分子化学	○			
5	YB	生物工学関連法規	○			
専1	ALL	科学技術英語	○	○		
専1	ALL	データ解析	○	○		
専1	ALL	上級英語		○		
専1	YM	スピーチコミュニケーション		○		
専1	YB	環境分析技術	○			
専2	ALL	スピーチコミュニケーション		○		
専2	ALL	地球環境科学	○			
専2	YB	分離工学	○			
専攻科		電子デバイス制御ソフトウェア開発講座	○			
ALL	ALL	gmail問い合わせ	○			
ALL	ALL	ネットワーク利用オリエンテーション	○	○		
職員		WebClass Template Course		○		
職員		教員専用クラス	○	○		○
職員		国際プロコン(Robocode)	○			

平成24年度八代キャンパスICT活用学習支援センター演習室の利用状況

機械知能システム工学科 村山 浩一

1. 演習室の環境について

ICT活用学習支援センター八代キャンパス(以下ICTセンター)では、表1に示す通り、第一から第四までの各演習室にそれぞれ54台、50台、32台、51台、合計で187台のPCが設置され、これらすべてのPCは保守管理の工数を削減すべく、ネットワーク起動型のHDD-lessシステムであるVID(Virtual Image Distributor)によって運用されている。

すべての演習室のPCには、OFFICE等の基本的なアプリケーションの他に、VisualStudioやprocessingと言ったプログラム開発環境、SolidWorksといった3D-CAD等のソフトがインストールされており、低学年のリテラシー教育から高学年の専門科目の授業まで、幅広く利用されている。また第四演習室にはCHJeru社のCALLシステムであるCalaboEXがインストールされており、英語の授業でも演習室が活用されている。

表1 演習室のPCについて

	PC機種	CPU	メモリ	台数
第一演習室	DELL OptiPlex745	Core2Duo 1.86GHz	2GB	54
第二演習室	同上	同上	同上	50
第三演習室	同上	同上	同上	32
第四演習室	DELL OptiPlex755	Core2Duo 2.33GHz	同上	51

※台数は第一～第三演習室は2台、第四演習室は1台の教員用PCを含む

2. 各演習室の利用状況について

各演習室のPCにおける月別のログイン回数をまとめたものを表2に示す。このログイン回数により、演習室のおおよその利用状況を知ることが出来る。なお開発用端末とは、各演習室のPCが使用するハードディスクの仮想イメージを更新するためのPCで、サーバー室に3台が設置されている。

平成24年度一年間を通しての総ログイン回数は63,573回で、平成23年度の総ログイン回数(57,812回)と比較すると、再編統合による3学科構成が3年次まで移行し、1クラス分の学生数が減少しているにも拘わらず、約10%増加していた。

次に各演習室のPC一台あたりのログイン回数で見ると、第一演習室が最も利用頻度が高く、第三演習室が最も低いという結果だった。平成23年度と比較すると、すべての演習室において利用頻度が増加してお

り、特に第四演習室の利用頻度は1.6倍と大幅に増加している。平成23年度までは、CALLシステムの安定可動を優先するという理由から、第四演習室へのアプリケーションソフトのインストールを出来るだけ控えていたが、平成24年度からは他の演習室とほぼ同様のアプリケーションがインストールされたため、位置的な利便性が高い第四演習室が好んで利用されたためだと思われる。

最後に月別の比較では、夏季および春季の長期休業期間中を除き、およそ5000～7000/月の割合でログインされている。なお、5月と7月はそれぞれ9250回、8068回と他の月と比較してログイン回数が多くなっているが、これは定期試験前という時期が関係しているものと思われる。

表2 各演習室の月別ログイン回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	一台あたり
第一演習室	2078	2814	2104	2588	851	696	2420	1845	1796	2401	900	7	20500	379.6
第二演習室	1653	2647	1704	1875	983	529	1805	1383	1412	1808	685	50	16534	330.7
第三演習室	697	1283	959	1346	418	221	1047	925	790	890	466	50	9092	284.1
第四演習室	1865	2506	1884	2259	683	341	1900	1618	1616	1928	834	3	17437	341.9
開発用端末	2	0	5	0	0	3	0	0	0	0	0	0	10	3.3
計	6295	9250	6656	8068	2935	1790	7172	5771	5614	7027	2885	0	63573	334.6

3. 各クラスの利用状況について

クラスごとの月別のログイン回数をまとめたものを表3に示す。一人あたりのログイン回数では4Eが最も多く、その後は3AC、3MI、2MI、2ACの順となっている。特に3年生については、昨年度の旧カリキュラムの3年生と比較して、すべての学科で利用回数が大幅に増

加しており、ICT教育を基軸とした新カリキュラムの特徴が顕著に表れている。

なおゲストアカウントにおいて、8月、9月のログイン回数が多いのは、ICTセンター主催のEXCEL関数講座、中学生プロコンセミナー、小学生向けプログラミング体験といった公開講座が開催されたためである。

表3 各クラスの月別ログイン回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	一人あたり
1MI	524	699	220	282	109	91	248	194	208	309	234	10	3128	74.5
2MI	392	596	473	617	315	141	689	455	556	454	212	11	4911	116.9
3MI	307	515	596	738	159	153	632	590	499	574	319	21	5103	118.7
4M	256	447	262	542	78	92	397	292	199	420	105	2	3092	70.3
5M	383	446	653	722	229	32	199	207	192	257	102	3	3425	90.1
M・MI科合計	1862	2703	2204	2901	890	509	2165	1738	1654	2014	972	47	19659	94.1
3E	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	17	17.0
4E	606	813	654	633	285	210	654	652	562	719	203	15	6006	127.8
5E	530	625	506	470	144	143	453	358	321	329	80	2	3961	107.1
E科合計	1142	1444	1163	1104	430	353	1107	1010	883	1048	283	17	9984	117.5
1AC	522	922	174	122	138	44	250	96	141	206	87	0	2702	62.8
2AC	370	627	388	543	223	112	686	365	357	428	254	17	4370	104.0
3AC	385	562	472	695	161	138	588	415	490	626	435	9	4976	127.6
4C	331	421	390	588	41	32	252	300	325	361	65	1	3107	62.1
5C	50	45	71	110	2	10	39	65	36	76	3	0	507	15.8
AC・C科合計	1658	2577	1495	2058	565	336	1815	1241	1349	1697	844	27	15662	76.0
1BC	198	597	136	243	107	113	272	132	152	233	104	1	2288	53.2
2BC	373	432	371	550	195	99	587	452	375	407	255	3	4099	97.6
3BC	170	294	218	377	138	44	410	336	309	431	179	10	2916	74.8
4B	359	575	389	379	160	96	310	181	294	444	133	2	3322	73.8
5B	50	35	40	45	10	18	70	52	35	98	31	0	484	12.4
BC・B科合計	1150	1933	1154	1594	610	370	1649	1153	1165	1613	702	16	13109	63.0
1AP	348	392	446	251	64	77	324	513	326	436	64	1	3242	81.1
2AP	42	61	93	76	39	32	5	46	136	128	2	1	661	14.1
専攻科合計	390	453	539	327	103	109	329	559	462	564	66	2	3903	44.9
短期留学生	0	0	0	0	0	0	34	25	35	29	0	0	123	41.0
ゲスト	3	1	9	1	286	66	0	0	0	0	0	0	366	-
教職員	88	138	87	83	51	44	73	45	66	61	18	1	755	7.1
管理者	2	1	5	0	0	3	0	0	0	1	0	0	12	-
ログイン合計	6295	9250	6656	8068	2935	1790	7172	5771	5614	7027	2885	110	63573	-

4. 学年ごとの利用状況について

学年ごとの月別の利用状況について、ログイン回数をまとめたものを表4に示す。一人あたりのログイン数で見ると、2年生、3年生のログイン回数が非常に多く

なっており、通常の授業がおこなわれている日数で換算すると、学生は約2日に1回は演習室を利用していたことになる。

表4 各学年の月別ログイン回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	一人あたり
1年生	1244	2218	530	647	354	248	770	422	501	748	425	11	8118	63.4
2年生	1135	1655	1232	1710	733	352	1962	1272	1288	1289	721	31	13380	106.2
3年生	862	1371	1286	1810	458	335	1630	1341	1298	1631	933	40	12995	106.5
4年生	1552	2256	1695	2142	564	430	1613	1425	1380	1944	506	20	15527	83.5
5年生	1013	1151	1270	1347	385	203	761	682	584	760	216	5	8377	57.4
合計	5806	8651	6013	7656	2494	1568	6736	5142	5051	6372	2801	107	58397	82.5

5. 放課後の利用状況について

放課後の月別の利用状況について、各演習室での17時以降のログイン回数をまとめたものを表5に示す。全演習室の総計は3030回で、昨年度の回数(2392回)と比較して約27%も増加しており、ICTセンター演習室を利用して自学自習をおこなう学生が増えていることが分かった。

演習室ごとで見ると、第二演習室のログイン回数が他の演習室に比べ約2倍となっているが、これはシステム情報研究部の活動場所として使われているためだと思われる。

表5 各演習室の月別ログイン回数(17時以降)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第一演習室	114	202	27	51	20	14	24	48	24	94	27	0	645
第二演習室	116	226	128	142	126	21	98	80	121	119	21	1	1199
第三演習室	50	99	67	113	20	4	60	74	71	76	16	4	654
第四演習室	17	63	32	84	12	3	52	104	64	77	24	0	532
計	297	590	254	390	178	42	234	306	280	366	88	5	3030

資料

図書館統計 (平成24年度熊本キャンパス)

入館者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1,386	5,458	7,270	6,068	3,393	2,368	3,807	5,972	2,900	4,031	5,388	1,435	49,476

蔵書数	和書	洋書	合計
	77,760	3,575	81,335

分野別貸出冊数 日本十進分類法 (NDC)	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会 科学	4 自然 科学	5 技術, 工学	6 産業	7 芸術, 美術	8 言語	9 文学	その他	合計
		392	135	25	301	381	726	73	197	587	1,645	15

月別貸出冊数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	193	434	524	378	374	178	452	412	498	359	482	193	4,477

図書館統計 (平成24年度八代キャンパス)

入館者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2,786	3,310	4,378	3,554	1,632	1,623	2,796	4,591	1,740	3,645	2,404	641	33,100

蔵書数	和書	洋書	合計
	58,783	2,404	61,187

分野別貸出冊数 日本十進分類法 (NDC)	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会 科学	4 自然 科学	5 技術, 工学	6 産業	7 芸術, 美術	8 言語	9 文学	その他	合計
		112	126	36	328	519	609	35	195	379	2,832	0

月別貸出冊数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	594	705	562	377	465	204	641	338	441	335	363	146	5,171

施設見学者一覧 (熊本キャンパス)

月	日	見学者	人数
4	5	NHK職員	1
4	23	株式会社日総建	2
6		久留米高専	2
6		パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社	2
9		鹿児島高専	3
10		北九州高専	2
11		コトブキ(株)	3

月	日	見学者	人数
12	7	機構本部	3
1 (平成25年度)		香川高専	5
1 (平成25年度)	23	あい設計	3
1 (平成25年度)	23	都城高専	4
3 (平成25年度)	4	九州大学	1
3 (平成25年度)	19	仙台高専	1
3 (平成25年度)	25	仙台高専	1

施設見学者一覧 (八代キャンパス)

月	日	見学者	人数
12	5	機構本部	1
12	6	機構本部	6

資料

平成24年度 活動一覧

月	日	活動内容
4		熊本キャンパス2012年度Kシステム(学生カルテシステム)登録
4		熊本キャンパス新入生対象WebClassの導入教育
4	24	熊本キャンパスWebClassアップデート
4	25	第1回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
5	18	第1回 ICT活用学習支援センター運営委員会会議
5	23	第2回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
5	31	熊本キャンパス図書館・ICTホール・ICT活用学習ルーム・スタジオ前ホールへの無線AP設置
6		熊本キャンパス入院した学生へIPカメラによる授業配信を行う
6	4,5	平成24年度第1回ネットワーク管理者研修会(東京)
6	5	熊本県大学図書館協議会
6	8	教職員向け新図書データベースシステム利用講習会(八代キャンパス)
6	12,13	第4回校内LAN仕様策定委員会(佐世保)
6	14	熊本キャンパス前期ブックハンティング
6	15	熊本キャンパス4号棟第1セミナー室への無線LAN設置
6	29	第3回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
7	4	第1回 ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会会議
7	19	校内LAN入札予定業者への現地説明会
7	25	第4回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
7		熊本高等専門学校ICT活用学習支援センター報創刊号の発行
8	1	八代キャンパス「図書館だより」第43号発行
8	25~26	平成24年度中学校サマーセミナー(八代キャンパス)
8	27~29	熊本シニアネット八代支部会員への「EXCEL 関数入門」セミナー
8	30~31	高専機構主催IT人材育成研修会インターネットセキュリティ技術(東京)
9	2	小学校5,6年生を対象としたコンピュータプログラム体験(八代キャンパス)
9	3	熊本高専合同研修会でのeラーニング講習会の実施
9	11	第2回 ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会会議
9	13,14	九州沖縄地区図書館長会議(沖縄高専)
9	19	公式ホームページのICTセンターのページ更新
9	21	熊本キャンパス第2体育館、4号棟2F、5号棟教室への無線AP設置
9	8,15,22,29	社会人対象「電子デバイス制御用粗フォトウェア開発講座」(イノベーションセンターと共催)
9	26	第5回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
9	27	講義収録/動画コンテンツ作成システムCBOX導入及び操作説明会(八代キャンパス)
10	9	八代キャンパス情報電子工学科5年生への特別講演「急激に変化する情報セキュリティ」(奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 山口英教授)
10	10	熊本キャンパスWebClassによる2年生学生への特別支援開始
10	16	熊本キャンパス図書館、ICT学習ルームのwebカメラ設置
10	16	熊本キャンパスwebフィルタリングポリシーの変更
10	17	熊本キャンパス第34回校内読書感想文コンクール
10	28	平成24年度熊本県中学校プログラミングコンテスト(八代キャンパス)
10	31	第6回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
11		熊本キャンパス教員および学生対象のWebClass(eラーニング教材)のアンケート
11	6	ICTセンター熊本キャンパスと地域連携協力活動の活動に関するミーティング
11	21	熊本キャンパス学生用メールのG-mailへの移行開始
11	22	九州地区ファイアーウォールのハンズオントレーニング(八代キャンパス)
11	28	第7回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
12		熊本キャンパス通院学生へのIPカメラによる授業配信を開始する
12	1	熊本キャンパス後期ブックハンティング
12	8	熊本市内書店でのブックハンティング(八代キャンパス)
12	18	第3回 ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会会議
12	19	第8回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
12	25	熊本キャンパス3号棟教室・ICT演習室への無線AP設置
1	7	eラーニング高等教育連携(eHELP)全体会議(東京)
1	9~11	情報担当者研修会(東京)
1	11	第2回 ICT活用学習支援センター運営委員会会議
1	15	図書館掲示版への電子掲示版の設置(八代キャンパス)
1	15	八代キャンパス学生用メールのG-mailへの移行開始
1	22	熊本キャンパス校内LAN更新に関連する建屋間光ケーブルの調査の実施
1	30	第9回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
2	1	熊本キャンパス図書館だより(第24号)発行
2	26	第10回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
2	4	第4回 ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会会議
2	6	Eラーニングコンテンツ制作ソフト「ThinkBoard」コンテンツ作成マニュアル作成(八代キャンパス)
2	13	第5回 ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会会議
2	21	熊本キャンパス校内LAN更新に関連する建屋間光ケーブルの手直し工事の実施
2	26~3/1	熊本キャンパス高専生によるパソコン教室実施
3	16,17	熊本キャンパス校内LAN更新
3	20	熊本キャンパスFW更新
3	21	第11回 ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会会議
3	28	第3回 ICT活用学習支援センター運営委員会会議
3	25~30	熊本キャンパス無線LAN、MSダウンロードサーバ等のユーザ認証を新認証サーバへ移行
3	31	熊本キャンパス旧認証サーバの停止
3	31	熊本キャンパス旧学生用メールサーバを停止、G-mailへ移行完了
3		新教育用システムへの更新(八代キャンパス)(第1演習室52台、第2演習室48台、第3演習室30台、第4演習室50台、図書館2階パソコン室11台、寮17台 合計 208台)
3		新ネットワークシステムへの更新(スイッチ、認証システムとの連携、ファイアーウォール)、無線LANアクセスポイントの増設(八代キャンパス)
3		英語教育を目的としたDVDプレーヤーと3D-TVの導入(八代キャンパス)
3		図書館2階通路のバリアフリー化
4~3		セキュリティ対策とサーバ運用
4~3		教育用システムの保守・運用
4~3		情報コンセント追加および設置変更
4~3		図書データベース作成のためのデータ入力作業

◆ ICT活用学習支援センタースタッフ

センター長	米沢 徹也 (八代キャンパス共通教育科)
副センター長	小松 一男 (人間情報システム工学科)
学術情報活用支援事業部長	藤本 洋一 (ICT活用学習支援センター)
学術情報活用支援事業副部長	三好 正純 (人間情報システム工学科)
ICT基盤整備事業部長	石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)
ICT基盤整備事業副部長	小島 俊輔 (ICT活用学習支援センター)
協調学習支援事業部長	村山 浩一 (機械知能システム工学科)
協調学習支援事業副部長	石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)
ICT教育改善事業部長	小松 一男 (人間情報システム工学科)
ICT教育改善事業副部長	村田 美友紀 (生物化学システム工学科)
熊本キャンパス図書館	太田黒 恵美 (図書係長)
八代キャンパス図書館	光永 清司 (学術情報係長)

◆ ICT活用学習支援センター運営委員会委員

熊本キャンパス	八代キャンパス
小松 一男 (人間情報システム工学科)	米沢 徹也 (八代キャンパス共通教育科)
三好 正純 (人間情報システム工学科)	藤本 洋一 (ICT活用学習支援センター)
石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)	小島 俊輔 (ICT活用学習支援センター)
永田 和生 (情報通信エレクトロニクス工学科)	村山 浩一 (機械知能システム工学科)
藤井 慶 (人間情報システム工学科)	村田 美友紀 (生物化学システム工学科)
	赤石 仁 (八代キャンパス共通教育科)

【事務部】

内山 慎一 (総務課長)	高嶋 重俊 (学生課長)
大平 和美 (管理課長)	光永 清司 (学術情報係長)
遠藤 真一 (学務課長)	太田黒 恵美 (図書係長)

◆ ICT活用学習支援センター熊本キャンパス委員会委員

小松 一男 (人間情報システム工学科)	西村 勇也 (制御情報システム工学科)
三好 正純 (人間情報システム工学科)	田辺 正実 (人間情報システム工学科)
石原 秀樹 (熊本キャンパス共通教育科)	神崎 雄一郎 (人間情報システム工学科)
大石 信弘 (情報通信エレクトロニクス工学科)	藤井 慶 (人間情報システム工学科)
葉山 清輝 (情報通信エレクトロニクス工学科)	光永 武志 (熊本キャンパス共通教育科)
小田川 裕之 (情報通信エレクトロニクス工学科)	松尾 かな子 (熊本キャンパス共通教育科)
永田 和生 (情報通信エレクトロニクス工学科)	田口 泰幸 (技術センター)
石橋 孝昭 (情報通信エレクトロニクス工学科)	美川 潔 (総務課長補佐)
柴里 弘毅 (制御情報システム工学科)	太田黒 恵美 (図書係長)
野尻 紘聖 (制御情報システム工学科)	

◆ ICT活用学習支援センター八代キャンパス委員会委員

米沢 徹也 (八代キャンパス共通教育科)	池田 翼 (八代キャンパス共通教育科)
藤本 洋一 (ICT活用学習支援センター)	岩坪 要 (建築社会デザイン工学科)
小島 俊輔 (ICT活用学習支援センター)	吉永 圭介 (生物化学システム工学科)
村山 浩一 (機械知能システム工学科)	宮本 憲隆 (技術センター)
村田 美友紀 (生物化学システム工学科)	佐々木 尚人 (総務課)
赤石 仁 (八代キャンパス共通教育科)	光永 清司 (学術情報係長)

平成24年度のICT活用学習支援センター報第2号を発行するにあたり、ご多忙中のところ原稿をお寄せ頂きました皆様に感謝申し上げます。構成は創刊号に準じており、ICT活用学習支援センターでの活動内容が詳細に渡ってご理解いただけるように編集いたしました。ご一読頂き、本誌やセンター活動に皆様からのご意見をお寄せ頂ければと思っています。よろしくお願い致します。

平成24年度 熊本高等専門学校ICT活用学習支援センター報 第2号
2013年7月発行

編集/発行 熊本高等専門学校ICT活用学習支援センター

◆熊本キャンパス

〒861-1102 熊本県合志市須屋2659-2

Tel 096-242-6019 Fax 096-242-5504

◆八代キャンパス

〒866-8501 熊本県八代市平山新町2627

Tel&Fax 0965-53-1317

ICT Center for Learning Support